

シルヴィア・フェデリーチ著 小田原琳・後藤あゆみ訳 『キャリアバンと魔女』 資本主義に抗する女性の身体 1・30刊 四六判620頁 本体4600円 以文社

闘争は継続しているのだ

本書は女性のみならず、というよりも、まず男にこそひろく読まれてしかるべきだろう

入江公康



「キャリアバンと魔女」は、フェデリーチの著書の中でも、最も重要な位置を占める。それは、彼女が「魔女狩り」を通じて、資本主義の歴史をどのように描きだしたか、そして、その背後にどのような政治的・社会的な闘争が展開されたか、を明らかにしているからだ。

フェデリーチは、魔女狩りが単なる宗教的偏見によるものではなく、むしろ、資本主義の発展と密接な関係にあると主張している。魔女は、資本主義の発展を妨げる「悪魔」の化身として描かれた。彼女たちは、共同体の規範を破る者、異端者、そして、資本主義の発展を阻む者として、魔女狩りの犠牲者となった。

この本は、現代の女性たちにとって、単なる歴史の物語ではなく、現在の社会問題と深く結びついている。フェデリーチの議論は、現代の女性たちが直面している問題、例えば、労働市場の不安定化、ジェンダー不平等、そして、身体的自由の制限など、と深く結びついている。

本書は、女性のみならず、というよりも、まず男にこそひろく読まれてしかるべきだろう。なぜなら、この本は、資本主義の歴史を、単なる経済史としてではなく、むしろ、社会史、文化史、そして、政治史として描きだしているからだ。そして、その背後に、女性たちの闘争の歴史が描かれている。

「キャリアバンと魔女」は、フェデリーチの著書の中でも、最も重要な位置を占める。それは、彼女が「魔女狩り」を通じて、資本主義の歴史をどのように描きだしたか、そして、その背後にどのような政治的・社会的な闘争が展開されたか、を明らかにしているからだ。

フェデリーチは、魔女狩りが単なる宗教的偏見によるものではなく、むしろ、資本主義の発展と密接な関係にあると主張している。魔女は、資本主義の発展を妨げる「悪魔」の化身として描かれた。彼女たちは、共同体の規範を破る者、異端者、そして、資本主義の発展を阻む者として、魔女狩りの犠牲者となった。

この本は、現代の女性たちにとって、単なる歴史の物語ではなく、現在の社会問題と深く結びついている。フェデリーチの議論は、現代の女性たちが直面している問題、例えば、労働市場の不安定化、ジェンダー不平等、そして、身体的自由の制限など、と深く結びついている。

本書は、女性のみならず、というよりも、まず男にこそひろく読まれてしかるべきだろう。なぜなら、この本は、資本主義の歴史を、単なる経済史としてではなく、むしろ、社会史、文化史、そして、政治史として描きだしているからだ。そして、その背後に、女性たちの闘争の歴史が描かれている。

「キャリアバンと魔女」は、フェデリーチの著書の中でも、最も重要な位置を占める。それは、彼女が「魔女狩り」を通じて、資本主義の歴史をどのように描きだしたか、そして、その背後にどのような政治的・社会的な闘争が展開されたか、を明らかにしているからだ。

フェデリーチは、魔女狩りが単なる宗教的偏見によるものではなく、むしろ、資本主義の発展と密接な関係にあると主張している。魔女は、資本主義の発展を妨げる「悪魔」の化身として描かれた。彼女たちは、共同体の規範を破る者、異端者、そして、資本主義の発展を阻む者として、魔女狩りの犠牲者となった。

この本は、現代の女性たちにとって、単なる歴史の物語ではなく、現在の社会問題と深く結びついている。フェデリーチの議論は、現代の女性たちが直面している問題、例えば、労働市場の不安定化、ジェンダー不平等、そして、身体的自由の制限など、と深く結びついている。

本書は、女性のみならず、というよりも、まず男にこそひろく読まれてしかるべきだろう。なぜなら、この本は、資本主義の歴史を、単なる経済史としてではなく、むしろ、社会史、文化史、そして、政治史として描きだしているからだ。そして、その背後に、女性たちの闘争の歴史が描かれている。

「キャリアバンと魔女」は、フェデリーチの著書の中でも、最も重要な位置を占める。それは、彼女が「魔女狩り」を通じて、資本主義の歴史をどのように描きだしたか、そして、その背後にどのような政治的・社会的な闘争が展開されたか、を明らかにしているからだ。

フェデリーチは、魔女狩りが単なる宗教的偏見によるものではなく、むしろ、資本主義の発展と密接な関係にあると主張している。魔女は、資本主義の発展を妨げる「悪魔」の化身として描かれた。彼女たちは、共同体の規範を破る者、異端者、そして、資本主義の発展を阻む者として、魔女狩りの犠牲者となった。

この本は、現代の女性たちにとって、単なる歴史の物語ではなく、現在の社会問題と深く結びついている。フェデリーチの議論は、現代の女性たちが直面している問題、例えば、労働市場の不安定化、ジェンダー不平等、そして、身体的自由の制限など、と深く結びついている。

本書は、女性のみならず、というよりも、まず男にこそひろく読まれてしかるべきだろう。なぜなら、この本は、資本主義の歴史を、単なる経済史としてではなく、むしろ、社会史、文化史、そして、政治史として描きだしているからだ。そして、その背後に、女性たちの闘争の歴史が描かれている。